

も八葩出ル、八橋こいむらさき、花首に葉一まひづ、出ル、是迄かきつばたのるひ也、何も  
莖一本に花三度づ、咲物なり、肥たるは四ツ五ツも咲、一ばん花二番花といふ、

〔増補地錦抄〕杜若るひ、水草也、田土にうへ、常に水をたむべし、肥はごまめ又はごみほこりを  
入たるもよし、植分春秋かきつばたは當年花咲たるは來年消て不生、花立のきわに付きて、ひあ  
ふぎの様成葉有り、是に來年花咲故に買調ルに心を付べし、能花の咲たるにつねのたくさん成  
かきつばたを根にそへて、大かぶにして賣ル、然ば來年はかの能花立はくさつて、下成つねの花  
さく、能々吟味有べし、是をかきつばたの養子共、やとひ子共いふ、略中

四季杜若、四季共に暖成所に田土に合、肥等分水を少づ、たむべし、水ふかければ、ひへてさか  
す、時々ごまめをさすべし、又はごみほこりを入たるも可、

〔草木育種下美花〕杜子花漳州府志、扱燕子花は四七十月に花咲を、四季ざきと云、又白あり、白くし  
て紫斑あるを鶯の尾と云、紅みを帶る紫をまよくこうと云、花瓣大にして六枚あるを六曜とい  
ふ、總て田の傍池などに植たるは肥に及ばず、淺水に植べし、盆に植たるは干鯉ごまめ等をさし  
込てよし、又花菖蒲も同じ、

〔剪花翁傳正月開花〕早燕子花、色青く尋常の花種也、開花正月上旬、方陽面地みなもろけ此土地たるや俗に  
掘拔と稱する井水の、晝夜湧流る、水涯の南陽受なる、片下りの地に株を植て、西北の風寒をよ  
く圍ひ、此水の温暖なるを惹入るときは春はやく花咲也、此花初夏の頃も花咲なり、されど暖氣  
になりては、平常の花より却て遅し、肥淡大便、秋彼岸に根際に溜りし水を、二日ばかり干上、根本  
の高き方に右の肥を入、また三日ばかり干切て、後此水を惹入べし、

〔剪花翁傳三月開花〕燕子花、此花多種也、其四五種左の如し、いづれも開花三月中旬也、橋姫花中  
心青く縁白隈になる、村雲花名の如し、吹墨、白地に青き吹點あり、濃紅、紅梅色に淡青を含めり、淡